

積乱雲

南国真夏の入道雲 JOCVのバイタリティー

第39号 (2015・7)

●編集・発行

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会

鹿児島市卸本町8-20

TEL 099-268-9711

(題字・初代会長 石神 兼文)

平成27年度通常総会を開催

平成27年6月12日、かごしま県民交流センターにおいて、平成27年度通常総会が会員多数出席の下開催されました。

衛藤威臣会長の開会挨拶後、来賓として鹿児島県国際交流課 奥一彦課長、JICA九州 井崎宏所長より祝辞を頂き、会長を議長に審議に入りました。

事務局より、平成26年度活動報告として、帰国隊員の進路支援や青少年のカンボジア派遣、県下小中学校での「協力隊OBと留学生が先生」事業、国際協力講演会及びJICAボランティア留守家族連絡会等の実施報告がありました。

それらの活動に基づいた26年度決算報告、そして監事より会計検査報告の後、26年度活動報告並びに決算報告が承認されました。引続き27年度事業計画及び予算の説明が行われ原案通りに承認されました。今年度は青年海外協力隊発足50周年記念行事が予定されており、会員に協力を呼びかけました。

会の後半では、青年海外協力隊平成24年度3次隊・モンゴル・体育 桑山大氏による帰国隊員報告会も行われました。年間で最高気温30度、最低気温-30度、雪が降らないのが7、8月のみという環境の中、一人でも多くの子ども達を笑顔にできるような体育の授業を心がけて活動したそうです。

総会終了後にはJICAボランティア平成27年度1次隊の壮行会が開催されました。青年海外協力隊の4名が訓練所で学んだ現地語で自己紹介をし、任地での抱負を語りました。出席者からは温かいスピーチを頂き、出発隊員を激励しました。



JICA九州 井崎宏所長



平成26年度通常総会



桑山隊員による帰国報告会



平成27年度1次隊壮行会

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告

(平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 31 日)

1. 帰国隊員への進路支援

- a) 今年度の帰国隊員は 11 名。進路状況は、現職復帰 4 名、民間企業・団体 2 名、進学 2 名、公務員 1 名、教員講師 1 名、未決定者・未確認者 1 名
- b) 鹿児島県教育委員会等に帰国隊員特別枠・優遇制度採用等の要請
・鹿児島県教育庁は今年度募集より帰国隊員への加点制度を導入。
- c) 鹿児島県及び自治体訪問による帰国隊員採用のお願い
・鹿児島県人事委員会委員長を訪問。帰国隊員特別枠の導入を要請
・鹿児島市職員に 1 名、いちき串木野市の職員に 1 名採用される。
・霧島市役所、志布志市役所、鹿屋市役所訪問
- d) グローバル人材と民間連携の推進
・大福コンサルタント、八光工業、トヨタヨ車体研究所、曾於リサイクルセンター
三州産業を訪問し求人のお願いと民間連携について説明
- e) 進路相談カウンセラー、JICA 九州、協力隊事務局との連携による情報の収集と提供
- f) 求人・進学など進路に関する情報の収集と提供
- g) 本会会員企業・団体、帰国隊員勤務先等よりの情報の収集と提供
・学校法人原田学園と大福コンサルタントより求人。各 1 名採用される。
- h) 帰国隊員知事表敬同行

2. 現職派遣の推進

- a) 現職派遣条例制定済自治体(22 自治体)訪問と制度広報のお願い
・訪 問 先 ー 鹿児島県、鹿児島市、鹿屋市、霧島市、
- b) 現職派遣条例未制定の 18 自治体に制定お願いの文書発送（県も同様の文書発送）
- c) 県教育長、県教育委員会教職員課長に「教員特別参加制度」での推薦者増のお願い
- d) 民間企業・団体への現職派遣制度広報及び活用の呼びかけ
- e) 募集説明会の参集者に対し現職派遣制度広報とアドバイス
・鹿児島市で開催の募集説明会に 4 回出席。制度説明と進路相談を行なった。
- e) 現職参加制度活用希望企業・団体および相談者への対応

3. 協力隊事業の広報並びに国際性豊かな青少年の育成

- a) 「協力隊 OB と留学生が先生」教育プログラムの実施（別紙参照）
（青年海外協力隊鹿児島県 OB 会、（公財）鹿児島県国際交流協会との共催）
県下各地の小中校で約 43 回実施。対象児童生徒 2085 名、派遣 OB43 名、留学生 23 名
- b) 第 23 回鹿児島県青少年国際協力体験事業の実施
（青年海外協力隊鹿児島県 OB 会、（公財）鹿児島県国際交流協会との共催）
・派 遣 地 ー カンボジア（プノンペン、バタンバン）

- ・派遣人数 — 17名(中学生5名、高校生12名)、同行者6名(内マスコミ2名)
 - ・事前研修 — 1回目ー6月8日、2回目ー6月29~30日(1泊2日)
 - ・内 容 — 村でのホームステイ(4泊)、農作業体験・交流、2か所の協力隊員活動現場訪問・体験及び懇談、地元学生・村民との交流
 - ・共 催 — 鹿児島市、鹿屋市、霧島市、枕崎市、南九州市、南さつま市、いちき串木野市
 - ・協賛企業 — 鹿児島銀行、鹿児島トヨタ自動車、鹿児島空港ビルディング、鹿児島ヨコハマタイヤ、キンコー醤油、小正醸造、薩摩酒造、下堂園、太陽運輸倉庫、南国殖産、MISUMI、ミサカ、山形屋、弓場貿易、レイメイ藤井
 - ・活動報告 — 報告会の開催、新聞・テレビでの報道、報告書作成・配布
- c) 国際協力講演会開催
(青年海外協力隊鹿児島県OB会、鹿児島市国際交流市民の会との共催)
- ・開催日 — 平成26年2月16日
 - ・場 所 — かがしま市民福祉プラザ
 - ・内 容 — 第1部 講演会
講師 — NPO 法人ロシナンテス理事長 川原尚行
第2部 帰国隊員報告
園山智子(23-1 インドネシア、日本語教師)
榎木翔一(23-2 ベナン、ソーシャルワーカー)
 - ・参集者 — 261名
- d) ボランティア事業(青年海外協力隊、日系社会、シニアボランティア)募集説明会への協力。
青年海外協力隊・日系社会青年ボランティア
- | 開催時期 | 実施回数 | 参集者 | 応募者 | 合格者 |
|------|------|---------|---------|-------|
| 春募集 | 2回 | 67(45)名 | 15(14)名 | 3(1)名 |
| 秋募集 | 2回 | 52(30)名 | 37(10)名 | 6(6)名 |
- シニアボランティア・日系シニアボランティア
- | 開催時期 | 実施回数 | 参集者 | 応募者 | 合格者 |
|------|------|---------|-------|-------|
| 春募集 | 1回 | 16(19)名 | 0(7)名 | 0(1)名 |
| 秋募集 | 1回 | 31(14)名 | 5(1)名 | 1(0)名 |
- e) ボランティア事業(協力隊、シニア)ゼミへの協力
- f) ホームページの<http://www.kagojocv.net>のリニューアル
従来の内容を一新すべく外部専門家に委託

4. 派遣協力隊員、シニア隊員、日系青年ボランティアへの支援

- a) 月刊誌「グラフかごしま」・「かごしまナウ」の送付
- b) 壮行会の開催 — 平成25年6月21日、9月27日、12月20日、3月19日
- c) ボランティア家族連絡会の開催
(JICA九州、協力隊OB会との共催)
 - ・開催日 — 平成26年2月16日
 - ・場 所 — かがしま市民福祉プラザ
 - ・内 容 — 協力隊事業の現況、帰国後の進路、派遣中隊員からの報告
帰国隊員と家族の懇談
 - ・出席者 — 10家族15名、帰国隊員14名、関係者6名
- d) 知事表敬同行 — 平成25年6月21日、9月27日、12月20日、
平成26年3月19日

- ・場 所 — かがしま市民福祉プラザ
- ・内 容 — 協力隊事業の現況、帰国後の進路、派遣中隊員からの報告
帰国隊員と家族の懇談
- ・出席者 — 9家族10名、帰国隊員14名、関係者5名
- d) 知事表敬同行 — 平成26年6月27日、9月26日、12月19日、
平成27年3月19日

5. 組織強化及び会員サービス

- a) 月刊誌「クロスロード」の送付
- b) 会報「積乱雲」年2回発行と会員及び派遣中隊員への送付
- c) 留守家族対象の「視察の旅」への協力、情報提供
- d) 出発隊員家族・留守家族・民間企業・個人に加入の呼びかけ
- e) 会員への情報提供及び平成27年協力隊カレンダーの送付
- f) 会員状況 平成27年3月31日現在

	会 員 数	対 前 年 比	口 数	対 前 年 比
地 方 自 治 体	30	増減なし	47口	増減なし
団 体 ・ 企 業	46	増減なし	59口	増減なし
個 人	63	－19	65口	－19
合 計	139	－19	171口	－19

6. 国際協力支援及び広報活動

- a) 日本料理講習の材料をペルーに、ブルキナファソに野球用具を送付
- b) 南日本新聞社（ボランティア便り26回掲載）、KKB、MBC、FM ラジオへの協力
- c) 講師派遣 — 出水市、鹿児島県環黄海青少年事業、高校生塾、こども塾
- d) 鹿児島県議会傍聴 — 協力隊事業に関する質問5点 9月19日

7. 各種機関・団体との連携

- a) 青年海外協力隊鹿児島県OB会との連携
- b) (公財)鹿児島県国際交流協会主催イベントへの参加・協力
- c) (公財)鹿児島市国際交流財団主催イベントへの参加・協力
- d) かがしまアジア青少年芸術祭への参加・協力
- e) 国際協力機構 JICA イベントへの参加・協力
- f) 鹿児島県留学生推進協議会への出席・協力

8. 会議開催及び行事参加

- a) 通常総会—平成26年6月27日
- b) 理 事 会—平成26年6月27、12月19日
- c) 各種関係機関・団体会議、行事への参加
- d) 一般社団法人協力隊を育てる会全国代表者会への出席 平成27年1月27日

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会会報

平成26年度事業実績

(敬称略)

教育事務所 等	市町村名	学校名	対象 学年	参加 人数	派遣日	講師 (JICA OBIは派遣国、外国人講師は出身国を〔 〕内に記載)	
						OB	外国人
鹿児島市 教育委員会	鹿児島市	イシキ 伊敷小学校	6	69	2月10日	小川 洋久〔ボツワナ〕	—
		タケオカ 武岡小学校	6	54	2月18日	木原 和代〔パラグアイ〕	—
		クロカミ 黒神小学校	全	5	11月18日	平田 華代〔モロッコ〕	—
		ミヤ 宮小学校	5・6	22	1月23日	木原 和代〔パラグアイ〕	—
		ホンミョウ 本名小学校	5・6	87	2月10日	本田 隆一〔トンガ〕	*李 璐〔中国〕
鹿児島	いちき串木野市	アラカワ 荒川小学校	3～6	21	10月17日	木原 和代〔パラグアイ〕	—
		クシキノ 串木野小学校	6	112	1月9日	坂元 絵理〔ボリビア〕	二宮 ロサリタ〔フィリピン〕
		セイブク 生福小学校	4～6	66	11月25日	小川 洋久〔ボツワナ〕	*謝 雅園〔中国〕
南薩	南九州市	カワナベ 川辺小学校	4	67	2月18日	末原 貴子〔ニジェール〕	マイケル ピーチー〔カナダ〕
	南九州市	アオト 青戸小学校	4	12	6月9日	塚田 拓〔コスタリカ〕	*モハマト ハスワン〔マレーシア〕
北薩	さつま町	クキノ 終野小学校	全	10	12月11日	小川 洋久〔ボツワナ〕	二宮 ロサリタ〔フィリピン〕
	出水市	コメ ツ ヒガシ 米ノ津東小学校	6	81	6月23日	福永 みゆき〔ブラジル〕	ブントク ファーディー〔シリア〕
	さつま町	シビ 紫尾小学校	全	26	11月21日	福永 みゆき〔ブラジル〕	—
	薩摩川内市	イムタ 蘭牟田小学校	全	61	7月14日	貴島 三実〔コスタリカ〕	—
	薩摩川内市	タカキ 高来小学校	4～6	58	2月12日	川野 さつき〔モロッコ〕	*モハマト ハスワン〔マレーシア〕
	さつま町	ヤマサキ 山崎小学校	3～6	75	1月29日	近森 章〔ラオス〕	—
	阿久根市	フキモト 脇本小学校	5・6	59	12月4日	本田 隆一〔トンガ〕	—
姶良・伊佐	姶良市	チョウサ 帖佐小学校	4	48	6月12日	平田 華代〔モロッコ〕	*滕 詩佩〔中国〕
	霧島市	リョウナン 陵南中学校	全	154	7月4日	貴島 三実〔コスタリカ〕	*申 吉峰〔中国〕
	伊佐市	ハヅキ ミシ 羽月西小学校	全	15	2月19日	永山 俊介〔中国〕	—
	湧水町	ヨシマツ 吉松中学校	全	90	2月17日	塚田 拓〔コスタリカ〕	マルコ ウィンセントーニ〔イタリア〕
	姶良市	ミフネ 三船小学校	5・6	36	2月9日	平田 華代〔モロッコ〕	シン ジュウン〔韓国〕
	伊佐市	ナンエイ 南永小学校	全	12	6月25日	貴島 三実〔コスタリカ〕	—
大隅	鹿屋市	タカス 高須中学校	全	29	7月14日	村上 俊祐〔ベトナム〕	—
	鹿屋市	ニシハラ 西原小学校※	6	81	12月11日	下松 裕和〔ブラジル〕	—
	肝付町	ウチノウラ 内之浦中学校	全	62	9月2日	村上 俊祐〔ベトナム〕	—
	東串良町	ヒガシクシラ 東串良中学校※	3	74	12月18日	大久保 由夏〔トンガ〕	—
	肝付町	キシラ 岸良小学校	2～6	10	11月12日	村上 俊祐〔ベトナム〕	*金 学苑〔中国〕
	志布志市	アリアケ 有明小学校	6	20	2月13日	平井 香織〔マラウイ〕	—
	曾於市	オオスミタ 大隅北小学校※	3～6	25	10月29日	瀬角 龍博〔ガーナ〕	アチャージャ マンディアラ〔ブータン〕他1名
	曾於市	フカガワ 深川小学校	3～6	30	11月5日	谷口 光代〔モロッコ〕	—
	南大隅町	ネジメ 根占中学校※	2	39	2月9日	下松 裕和〔ブラジル〕	—
熊毛	中種子町	ナカタネ 中種子中学校	全	227	12月11日	下平 健太〔マーシャル〕	ブントク ファーディー〔シリア〕
	西之表市	スミヨシ 住吉小学校	3～6	24	12月12日	下平 健太〔マーシャル〕	ブントク ファーディー〔シリア〕
	屋久島町	クリオ 栗生小学校	5・6	11	10月22日	渡部 幸〔グアテマラ〕	*韓 薩日娜〔中国内モンゴル〕
大島	瀬戸内町	ヒョウ 俵中学校	全・保健体育	30	11月2日	塚田 拓〔コスタリカ〕	*滕 詩佩〔中国〕
	伊仙町	オモテナフ 面縄小学校	6	14	2月13日	近森 章〔ラオス〕	—
	奄美市	サキバル 崎原小中学校	全	18	11月5日	塚田 拓〔コスタリカ〕	*滕 詩佩〔中国〕
	大和村	イマザト 今里小学校	全	8	12月18日	谷口 光代〔モロッコ〕	*宋 多情〔韓国〕
	大和村	ヤマト 大和小学校	5・6	17	6月27日	高橋 祐紀子〔パラグアイ〕	—
	宇検村	タケン 田検中学校	全	47	12月19日	谷口 光代〔モロッコ〕	*宋 多情〔韓国〕
	天城町	アマギ 天城小学校	4～6	70	2月12日	近森 章〔ラオス〕	—
	瀬戸内町	アキトク 秋徳小中学校	全	9	11月4日	塚田 拓〔コスタリカ〕	*滕 詩佩〔中国〕
	26市町村	43校		2085		のべ43名(実数21名)	のべ23名(実数15名)

*がついている外国人講師・・・留学生(のべ13名)鹿大・第一工大・鹿屋体大

第2号議案 平成26年度収支決算

(平成26年 4月 1日 - 平成27年 3月31日)

< 収 入 >

(単位円)

項 目	予 算 (A)	決 算 (B)	増 減 (B-A)	適 要
会 費	1,460,000	1,385,000	-75,000	法人会員106口×10,000 個人会員65口×5,000
助 成 金	80,000	80,000	0	(社)協力隊を育てる会
雑 収 入	100,300	80,000 329	-19,971	壮行会会費 預金利息
繰 越 金	1,719,528	1,719,528	0	
合 計	3,359,828	3,264,857	-94,971	

< 支 出 >

項 目	予 算 (A)	決 算 (B)	増 減 (B-A)	適 要
1. 事務局費	240,000	86,823	-153,177	
通 信 費	60,000	40,779	-19,221	総会案内、請求書発送,他
印 刷 費	40,000	4,914	-35,086	総会資料、コピー代,他
会 議 費	50,000	9,315	-40,685	理事会、総会
消 耗 品 費	60,000	21,815	-38,185	封筒、文房具、振込手数料,他
負 担 金	10,000	10,000	0	(社)協力隊を育てる会年会費
旅 費	20,000	0	-20,000	
2. 事業費	2,472,000	1,283,508	-1,188,492	
クロスロード月刊誌送付	252,000	218,730	-33,270	1,810冊×120円、カレンダー同封料
出発隊員壮行会	300,000	104,000	-196,000	
帰国隊員支援	50,000	24,266	-25,734	
国際協力講演会	30,000	30,035	35	通信費、資料
留守家族懇談会	10,000	0	-10,000	
協力隊OBと留学生が先生	350,000	350,000	0	実行委員会負担金
派遣隊員への支援	300,000	46,376	-253,624	グラフかごしま・ナウ 送付
広報活動	380,000	139,570	-240,430	H/P、50周年事業、カレンダー、講演
会報発行	250,000	156,084	-93,916	印刷費・送料
青少年国際協力体験事業	200,000	200,000	0	実行委員会負担金
国際協力支援事業	350,000	14,447	-335,553	ペルー
予備費	647,828	0	-647,828	
合 計	3,359,828	1,370,331	-1,989,497	

(次年度繰越) 3,264,857 -1,370,331 1,894,526

貸 借 対 照 表

資 産 の 部		負 債 の 部	
普 通 預 金	1,904,526	会費前受	10,000
		純資産	1,894,526

第 3 号議案 平成 2 7 年度事業計画

(平成 2 7 年 4 月 1 日 ～ 平成 2 8 年 3 月 3 1 日)

1. 帰国隊員への進路支援

- a) 鹿児島県に帰国隊員特別枠・優遇制度採用等の要請
- b) 民間企業求人先開拓と JICA 民間連携の活用推進
- c) 市町村へ帰国隊員採用との要請
- d) 出発・帰国隊員の知事表敬同行
- e) 協力隊事務局、ハローワークとの連携による情報提供
- f) 進路相談カウンセラーによる進路相談と求人情報の提供
- g) 県内企業求人・進学など進路に関する情報収集・提供
- h) 本会会員企業・団体、帰国隊員勤務先等よりの情報収集・提供

2. 現職派遣の推進

- a) 職員現職派遣条例未制定自治体に条例制定のお願い
- b) 職員現職派遣条例制定済自治体職員への制度広報と現職派遣のお願い
- c) 県教育委員会に「教員特別参加制度」での推薦枠拡大のお願い
- d) 民間企業・団体への現職派遣及び民間連携制度の広報と活用の呼びかけ
- e) 募集説明会の参集者に対する現職派遣制度の広報
- f) 現職参加制度活用希望企業・団体へのアドバイス

3. 協力隊事業の広報並びに国際性豊かな青少年の育成

- a) 「協力隊OBと留学生が先生」教育プログラムの実施
(青年海外協力隊鹿児島県 OB 会、(公財) 鹿児島県国際交流協会との共催)
 - ① 県下小中校で 4 0 回実施
 - ② 派遣講師研修会の実施 5 月 31 日
- b) 第 2 4 回鹿児島県青少年国際協力体験事業の実施
(青年海外協力隊鹿児島県 OB 会、(公財) 鹿児島県国際交流協会との共催)
 - ・ 派遣地 — カンボジア (プノンペン、カンダール州)
 - ・ 期 間 — 平成 2 7 年 7 月 1 9 日～7 月 2 6 日(7 泊 8 日)
 - ・ 派遣人数 — 1 6 名(中学生 2 名、高校生 1 4 名)、同行者 6 名(内マスコミ 2 名)
 - ・ 事前研修 — 1 回目ー 6 月 1 4 日、2 回目ー 6 月 2 7ー 8 日(1 泊 2 日)
 - ・ 内 容 — カンダール州でのホームステイ(4 泊)、農作業体験・協力隊員の活動現場 2 か所訪問、地元学生との交流
 - ・ 共 催 — 鹿児島市、枕崎市、霧島市、南さつま市、南九州市、鹿屋市
 - ・ 協 賛 — 県内企業 1 5 社
 - ・ 活動報告 — 報告会の開催、新聞・テレビでの報道、報告書作成・配布
- c) 国際協力講演会開催
(青年海外協力隊鹿児島県 OB 会、(公財) 鹿児島市国際交流財団との共催)
 - ・ 時 期 — 平成 2 8 年 2 月
 - ・ 内 容 — 講演と青年海外協力隊員の活動報告
- d) 青年海外協力隊募集説明会への協力
春募集説明会 2 回、秋募集説明会 2 回出席
- e) ボランティア事業(協力隊、シニア)ゼミへの協力
- f) ホームページの <http://www.kagojocv.net> の充実

4. 派遣中青年海外協力隊員・シニア隊員・日系青年ボランティアへの支援

- a) 月刊誌「グラフかごしま」・「かごしまナウ」の送付
- b) 壮行会の開催 — 年4回
- c) ボランティア家族連絡会の開催 平成28年2月 JICA、協力隊OB会との共催
- d) 知事表敬への同行 — 年4回

5. 組織強化及び会員サービス

- a) 月刊誌「クロスロード」及び協力隊カレンダーの送付
- b) 会報「積乱雲」の発行及び送付
- c) 留守家族対象の「視察の旅」への協力及び情報提供
- d) 会員増強 — 留守家族、民間企業、各種団体および個人への加入の呼びかけ

6. 国際協力支援及び広報活動

- a) 県内各地での帰国隊員報告会の実施（協力隊OB会との共催）
- b) 「小さなハートプロジェクト」の実施
協力隊員の活動現場周辺からの協力要請プロジェクトに対し協力隊員を通じて支援
- c) 県民の「国際支援・協力への思い」橋渡し支援
- d) 国際交流・協イイベントへの参加ーパネル展示、相談コーナーの設置
- e) マスコミへの取材協力
- f) 講師派遣 — 自治体、高校、大学、各種団体、企業等

7. 各種機関・団体との連携

鹿児島県、JICA 九州、青年海外協力隊OB会、(公財)鹿児島県国際交流協会、(公財)鹿児島市国際交流財団、鹿児島国際交流協会センター (KAPIC)、他各種団体との連携

8. 会議開催及び行事参加

- a) 通常総会・理事会の開催
通常総会 — 平成27年6月24日
理事会 — 第1回 平成27年6月24日、 第2回 12月
- b) 各種会議、行事への参加
- c) 社団法人協力隊を育てる会会議への参加

9. 協力隊発足50周年事業の実施

- ①講演会・パネルトーク・記念式典・交流パーティー
 - a) 講演会 — 講師 伊藤聡子 フリーキャスター 「スーパーモーニング」
「ベストタイム」等 協力隊サポーター
 - b) パネルトーク — MC 伊藤聡子 JICA 関係者、帰国隊員
 - c) 記念式典
 - d) 交流パーティー
日 時 : 平成27年8月29日 13:30-19:30
場 所 : 東急東急 REI ホテル 鹿児島市中央町5-1
- b) 記念文集の発行
寄稿 : 県関係者、JICA 関係者、支援する会会員、帰国隊員、
発行部数 : 500部
発行日 : 平成27年8月29日
- c) パネル展開催
開催日 : 平成27年8月13-15日
場 所 : イオンモール

第4号議案 平成27年度予算

(平成27年 4月 1日 - 平成28年 3月31日)

< 収 入 >

(単位円)

項 目	予 算	前年度予算	対前年増減	適 要
会 費	1,400,000	1,460,000	-60,000	法人会員106口×10,000 個人会員68口×5,000
助 成 金	80,000	80,000	0	(社)協力隊を育てる会
雑 収 入	100,300	100,300	0	壮行会等の会費収入100,000 預金利息 300
繰 越 金	1,894,526	1,719,528	174,998	
合 計	3,474,826	3,359,828	114,998	

< 支 出 >

項 目	予 算	前年度予算	対前年増減	適 要
1. 事務局費	240,000	240,000	0	
通 信 費	60,000	60,000	0	総会案内、請求書発送,他
印 刷 費	40,000	40,000	0	総会資料、コピー代,他
会 議 費	50,000	50,000	0	
消 耗 品 費	60,000	60,000	0	封筒、文房具、振込手数料,他
負 担 金	10,000	10,000	0	(社)協力隊を育てる会年会費
旅 費	20,000	20,000	0	
2. 事業費	2,972,000	2,472,000	500,000	
クロスロード月刊誌送付	252,000	252,000	0	2000冊×120円
出発隊員壮行会	300,000	300,000	0	
帰国隊員支援	50,000	50,000	0	
国際協力講演会	30,000	30,000	0	通信費
留守家族懇談会	10,000	10,000	0	
協力隊OBと留学生が先生	350,000	350,000	0	実行委員会負担金
派遣隊員支援	300,000	300,000	0	グラフかごしま・ナウ 送付
広報活動	380,000	380,000	0	HP、パネル展、カレンダー,帰国報告
会報発行	250,000	250,000	0	印刷費・送料
青少年国際協力体験事業	200,000	200,000	0	実行委員会負担金
国際協力支援事業	350,000	350,000	0	小さなハート他
協力隊発足50周年記念	500,000	0	500,000	講演会、文集発行
予備費	262,826	647,828	-385,002	
合 計	3,474,826	3,359,828	114,998	

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会役員

平成26年7月1日～平成28年6月30日

役 員 名	氏 名	現 役 職 名
顧 問	伊 藤 祐 一 郎	鹿児島県 知事
〃	前 田 芳 實	鹿児島大学 学長
〃	森 博 幸	鹿児島市 市長
〃	岩 崎 芳 太 郎	鹿児島商工会議所 会頭
〃	井 上 晃 男	鹿児島大学名誉教授 前会長
会 長	衛 藤 威 臣	鹿児島大学名誉教授
副 会 長	椿 哲 哉	(公財)鹿児島県国際交流協会 専務理事
理 事	稲 葉 直 寿	鹿児島相互信用金庫 理事長
〃	岩 元 純 吉	(株)山形屋 代表取締役会長
〃	海江田 順三郎	高島屋開発(株) 相談役
〃	上 村 基 宏	(株)鹿児島銀行 頭取
〃	岸 尾 隆	鹿児島県市長会 事務局長
〃	小 正 芳 史	鹿児島県中小企業団体中央会 会長
〃	坂 上 省 悟	鹿児島県町村会 事務局長
〃	逆瀬川 尚 文	(株)南日本新聞社 社長
〃	志 賀 啓 一	志学館大学 理事長
〃 ★	奥 一 彦	鹿児島県国際交流課 課長
〃	山 元 浩 義	川内市商工会議所 会頭
〃	坪 水 徳 郎	鹿屋商工会議所 会頭
〃	永 山 在 紀	南国殖産(株) 社長
〃	中 村 耕 治	(株)南日本放送 社長
〃	原 口 泉	志学館大学 教授
〃	東 紘 一 郎	(株)ヒガシマル 社長
〃	南 徹	南アカデミーiBS外語学院 院長
〃	森 俊 英	(株)南日本銀行 頭取
〃	安 楽 大	(株)トータルコミュニケーションサービス 社長
〃	木 原 和 代	青年海外協力隊鹿児島県OB会 会長
〃	桑 山 昌 洋	青年海外協力隊鹿児島県OB会 顧問
兼事務局長	弓 場 秋 信	青年海外協力隊カウンセラー, 弓場貿易(株) 社長
監 事	橋 口 和 典	坂元醸造(株) 研究開発部長
〃	湯 田 照 廣	湯田自動車整備工場(有) 社長

★ 異動に伴う新役員



— 南日本新聞より —

モロッコ

進藤 鈴子



モロッコの店頭に並ぶ柿は、日本でも見る先のとがった渋みのある柿です。名前も同じフランス語で「カキ」。ドイツやイタリヤ、スペインでもカキと呼ばれているようですが、日本名とは知られていないようです。おいしそうに色づいていたので買ってみました。やっぱり、渋かったです。

私の任地アガディール市は大西洋沿岸にあります。ヨーロッパの人にとつてのハワイといわれるほど、夏のバカンスは

しんと・すずこ氏 1957年生まれ。シニア海外ボランティアとしてモロッコモハメディア観光技術専門学校（2011年8月～13年7月）と、アガイル観光技術専門学校（14年7月～現在）で日本料理指導。

大勢が押し寄せ、ホテル、レジダンスはほとんど空きがないようです。

アガディールの漁港は、イワシの本拠地が世界一と言われます。アガディールで取れたイワシの50%以上は日本へ輸出され、鮮度の良いマグロやイワシは缶詰工場へ送られます。どのくらいか。

イカやタコの70%も輸出先が日本といわれます。日本の食卓に毛ロツコ漁は欠かせないものになつてゐるのです。スーパーで毛ロツコ産の魚介を見つけたら、私のことも思い出してくださ

2014年12月27日 南日本新聞

ブルキナファソ

松山 遼



ブルキナファソのイスラム教徒は、年に1度、約1カ月にわたる「断食」を行う。断食とは、太陽が昇っている間、あらゆる飲食を禁じるイスラム行事だ。この断食、気になって去年私も挑戦したことがある。

まず日の出前に急いで起床し、食べられるだけと食べ、水分をたっぷりと補給する。日が昇ってからば通常の生活をするが、何があっても飲食はしない。ブルキナは気温が高いので夕方になるころには喉は力カラ、おなかはペコペコ、動きはワラワラ。そして日没直

A map of the African continent with Burkina Faso highlighted in black. The text 'ブルキナファソ' is written above the highlighted area, and 'アフリカ大陸' is written to its right. The equator is labeled '赤道' at the bottom.

日本人なのでよく耐えたな。日本人が僕ら（アルキナフアン）と同じように生活しようとしてくれたのは本当につれしいよ」と言ってもらえたことは予想外の感動であった。

ちなみに断食のおかげで、少しばかり我慢する力が身についたかもしれない。これで私も「断食系男子」でしょうか？

まつやま りょう氏
1990年沖永良部島生まれ。いちき串木野市、鹿児島市育ち。鹿児島中央高校。2013年7月から小学校教諭兼隊員としてアルキナフアン、ウニデで活動中。

2015年5月23日 南日本新聞

スーダン

瀬戸山倫代



気温が45度を超え熱風が砂埃を舞いあげる。強い日差し。乾燥で大量にかいた汗はすぐに蒸発した。2年前も同じだったなあ、と帰国準備に追われながら2年の任期を振り返った。

赴任から半年、アラビ語の難解さと現地での異文化適応に疲れ前進する力を失った。スーダンに嫌気がさっていた。外を歩けば、二ハオ、嘘つき、泥棒とからかわれ（悪意はないらしい）、日本人だと訂正して回るの本人だと訂正して回るのも、外出も苦痛だった。そんな時先輩隊員がナイル川の合流地点に誘った。

写真: 高橋 真知子

せとやま・みちよ氏
1984年生まれ、鹿児島市出身。管理栄養士。企業や病院での栄養指導を経て、2013年からスーダン共和国に赴任。職業訓練センターにおいて女性グループの活動を支援する。

てくれた。実はナイル川はウガンダ源流の白ナイルとエチオピア源流の青ナイルがスーダンの首都ハルツームで合流しナイル川となりエジプトへ向かう。大河川の絶景への期待をよそに、着いた場所には野菜畑だった。

青ナイルと白ナイルの合流地帯にできた中州ではナスやオクラが栽培され、水を汲み上げるポンプのかすれた音が対岸から響いている。眼前で二つの流れが静かに合わり、ゆつたりと北へ向かう。担子揚げしたが、落ち着く景色で荒れた気持ちが平らになった。川岸に座り、露店で買った落花生を食べながらふと思つた。自力で進むのではなく、肩の力を抜いてはやる社会的流れに身を委ねてみよう。その日から何度そこを訪ねただろう。スーダンをたつ前にありがとと言いにいく。



2015年6月21日 南日本新聞

表敬訪問

JICAボランティア鹿児島県出発隊員4名による県庁への出発表敬訪問が平成27年6月24日（水）鹿児島県庁佐々木副知事応接室にて行われました。

JICA九州 井崎宏所長からそれぞれのボランティアが紹介され、佐々木副知事からは、辛苦い経験は時が経てば経つほど熟成していい思い出になる、と出発隊員に激励のお言葉がありました。その後、出発隊員が任国での活動に向けての抱負を述べ、仮屋隊員は世界に目を向けることのできる教師を目指し、将来は鹿児島の教育に還元したいと意欲が語られました。



出発隊員紹介

青年海外協力隊（平成27年度1次隊）

・仮屋 慶一



◆ モルディブ ＊体育

モルディブの子ども達に「体育」の楽しさを伝えることができるように頑張りたいと思います。たくさんの方に挑戦し、2年間で全てを吸収するつもりで頑張ります。

・泉二 有矢乃



◆ ドミニカ共和国 ＊日本語教育

現地の人たちに日本の文化などを紹介し、多くの方に日本に興味をもってもらえるようにがんばりたいです。また、現地の方との交流を大事にし、たくさん友達を作りたいです。

・山崎 桃子



◆ ベトナム ＊理学療法士

「発展途上国の医療の現状を知りたい！」という好奇心を大事にしながら、現地の人々と共に考え、成長していきたいと思います。理学療法士として人として大きく成長して帰ってきたいです。

・日高 かおり



◆ ザンビア ＊感染症・エイズ対策

エイズ感染者・患者が多い地域での活動となりますが、自分ができることは何かを見極め、精一杯できることをしたいと思います。たくさんの友達を作ってきます！

帰国隊員

（平成27年2月～平成27年7月）

青年海外協力隊

松山 遼	小学校教諭	ブルキナファソ	室屋 洸治	自動車整備	タンザニア
------	-------	---------	-------	-------	-------

会員募集中です。

1 人の多くの人々の応援が、海を越えた若者たちを勇気づけ、そのエネルギーが地球中に広がります。

年会費：① 個人会員：5,000円／口 ② 特別会員：10,000円／口

振込先：鹿児島銀行卸本町支店（普）829067

名義人：鹿児島県青年海外協力隊を支援する会 会長 衛藤威臣

なお、会員みなさまには、月刊誌「クロスロード」が送付されます。



編集後記



平成27年8月29日（土）鹿児島での青年海外協力隊50周年記念事業に向けて、実行委員会を中心に記念式典、講演会、記念誌発行準備作業が進んでいます。協力隊事業50年の歴史の中で日本が世界に果たしてきた役割、隊員が任国で学んできたことをこの機会に共有し、次の50年へ繋げていけたらと思います。皆さまに永く温かく支えていただいているおかげで活動を続けていくことができるのだと身が引き締まる思いです。